

# 令和8年度広瀬川におけるアユ遡上調査結果

令和8年6月30日  
宮城県水産技術総合センター

宮城県水産技術総合センターでは、アユ釣り解禁前の情報提供と資源管理のための基礎データを得るため、毎年5月と6月に広瀬川において、アユの遡上状況を調査しています。本年度の調査結果は、以下のとおりです。

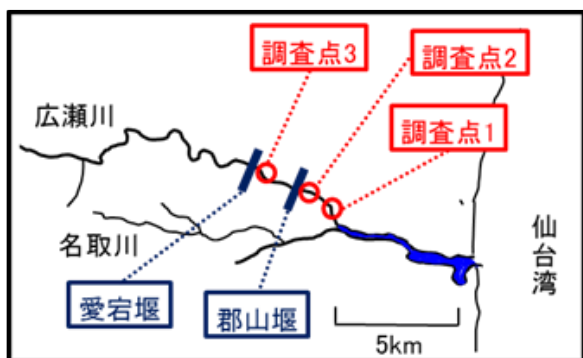


図1 アユ遡上調査地点

## (1) 調査点

- 調査点1：名取川との分岐点から500m上流（河口から7.5km）
- 調査点2：郡山堰下（河口から10km）
- 調査点3：愛宕堰下（河口から11.5km）

## (2) 調査実施日

- 5月8日、25日、6月11日
- （6月下旬調査は天候不良により中止）

## (3) 調査方法

各調査点において、投網を最大10投し、1投あたりの平均採捕尾数を求めました。また、

1調査点あたり50尾のアユを当センターへ持ち帰り、体サイズ（標準体長および体重）を測定しました。広瀬名取川漁業協同組合では、調査日以前に人工種苗のアユを放流しているため、測定した50尾のアユから人工種苗の混入率を算出し、求めた平均採捕尾数の値を補正しました。また、今年度は北上川産天然種苗の放流も行っており、広瀬川の天然アユとの区別はできませんでしたが、総数に対して少数なので、補正には考慮していません。



図2 調査風景①



図3 調査風景②

#### (4) 調査結果

##### 各調査地点の天然アユの平均採捕尾数

各調査地点における天然アユの平均採捕尾数（平成30年（2018年）から令和5年（2023年）までの最大値と最小値を除いた平均値及び直近3ヶ年）を図4に示しました。また、アユの平均体長を表1に示しました。なお、令和5年度は人工種苗の判別を行っていませんが、最上流の調査点3よりも上流で放流していること、これまでの調査でも混入率が小さかったことから、すべて天然アユとして取り扱っています。

##### ○調査点1

投網1投あたり48.8尾（5月上旬）、17.7尾（5月下旬）、13.4（6月上旬）でした。5月上旬は過去10年の中で最も多くのアユが採捕されました。また、昨年度と比較すると6月は2cm以上体長が大きい結果が得られています。

##### ○調査点2

投網1投あたり155.2尾（5月上旬）、110.3尾（5月下旬）、32.9（6月上旬）でした。5月上旬は過去10年の中でも最も多く、5月下旬も100尾を超えていました。また、昨年度と比較すると体長は5月、6月ともに大型の傾向が見られました。

##### ○調査点3

投網1投あたり47.3尾（5月上旬）、34.4尾（5月下旬）、80.3尾（6月上旬）でした。5月上旬、6月上旬は過去10年の中で最も多くのアユが採捕されました。体長に関しては、5月は前年度よりやや小型だったものの、6月上旬には1cm以上大きくなっていました。

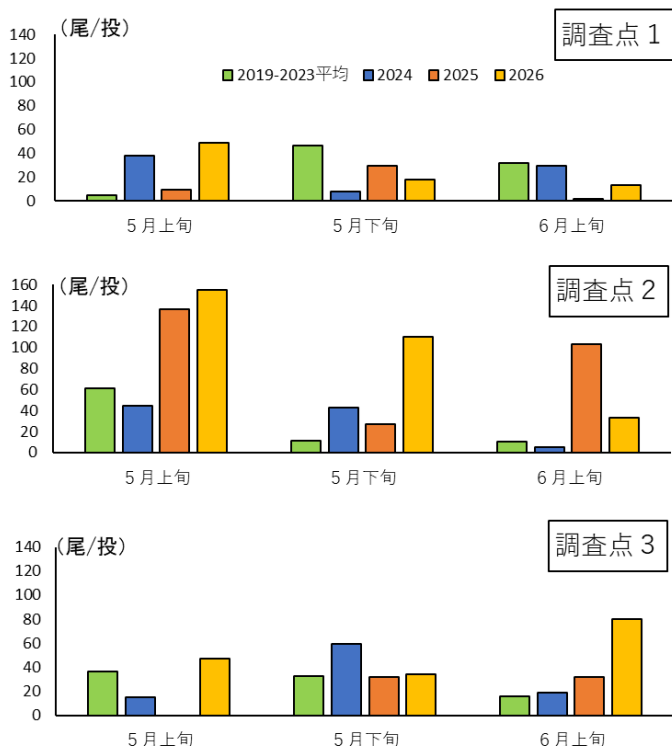


表1 各調査点のアユの体長

採捕年月	調査点1		調査点2		調査点3	
R8.5月	8.44 ± 1.66	8.62 ± 2.12	8.81 ± 1.57			
R7.5月	8.38 ± 1.76	7.57 ± 1.91	9.10 ± 1.78			

単位：cm、±は標準偏差（標本のばらつき）

採捕年月	調査点1		調査点2		調査点3	
R8.6月	9.60 ± 1.86	9.99 ± 1.70	9.34 ± 1.82			
R7.6月	7.30 ± 1.33	8.08 ± 2.19	7.60 ± 1.68			

単位：cm、±は標準偏差（標本のばらつき）

図4 各調査地点における天然アユの平均採捕尾数